

今月の星空

北



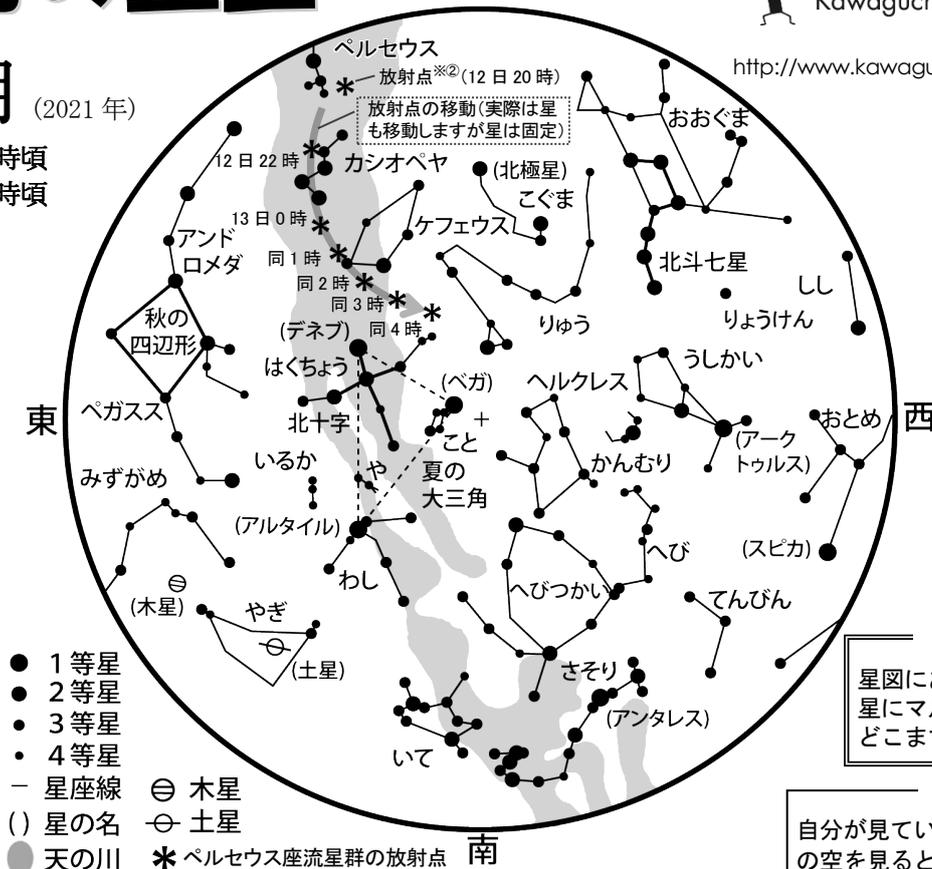
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum

tel 048(262)8431

http://www.kawaguchi.science.museum

8月 (2021年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



夏休みチャレンジ
星図にある星を見つけたら、星にマル印を付けていこう。どこまで見えるか挑戦しよう！

星図の見方
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ)頭の上にかざして見ます。

月 齢 ● 新月 8日、● 上弦 16日、○ 満月 22日、● 下弦 30日

惑星情報 金星 夕方 西(しし→おとめ座 -4等) 木星 夜のはじめ 南東(みずがめ→やぎ座 -3等)
土星 夜のはじめ 南東→南(やぎ座 0等)

★夏の星座と木星・土星の輝き

空高くに夏の大三角が昇り、同時に天の川も天頂付近にやってきました。14日は伝統的七夕(旧暦7月7日)。おりひめ星(ベガ)とひこ星(アルタイル)を改めて探してみましょう。また、郊外であれば夏の大三角付近にある、「や座」や「いるか座」などの小さくまとまった星座も見つかるかもしれません。

南東の空には秋の星座とともに土星と木星が昇ってきました。土星は2日、木星は20日に衝を迎えます。衝を迎えた天体は、太陽と正反対に位置するため、日没とともに昇り、日の出とともに沈むため、一晩中見られる観望好機となります。ベガなどの恒星がキラキラ瞬くのに対して、惑星は瞬かず、落ち着いた輝きを放ちます。木星は-3等、土星は0等の明るさがあるため容易に見つかるでしょう。

★好条件のペルセウス座流星群を見てみよう

毎年8月13日頃にたくさんの流れ星が出現するペルセウス座流星群。今年は活動のピーク(極大^{※①})が13日午前4時頃で、放射点^{※②}が高くなる時刻と重なるため、好条件です。最も多くの流星が期待できるのは、12日の夜遅くから13日の明け方までです。

<たくさんの流星が観察できる条件>

※①流星群の「極大」前後…流星群はある一定の期間に出現し、「極大」に向かって徐々に増加し、その後減少します。今年の極大は13日午前4時頃であり、放射点^{※②}が高い時間に重なります。

※②「放射点」が高い…流星群は放射点を中心に四方八方に流れます。一般に、放射点が高く昇るほど全方位に流れる流星を観察しやすくなります。今回は星図のとおり、夜中から明け方にかけて高くなります。

※③「月明かり」がない…流星の明るさはさまざまです。人工の灯りが少ない場所であっても月が出ていれば空が明るくなり、暗い流星は見つけにくくなります。12日は午後9時頃には月が沈み、影響はありません。

観察のポイント
観察の目安 11日~13日の3夜
★事前の場所探し
・空を広く見渡せる安全な場所
★見かた
・広い範囲を見る
・暗闇に目をならす
・横になって見る
★その他(便利なもの)
・足元を照らす懐中電灯
・横になれるレジャーシート
・虫除けや上着、夜露対策